

1/21

最後の工区に着工

九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)

九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開業に向け、新大村駅を通る高架橋工事に着工するにあたり、安全祈願が植松3丁目の建設予定地で開催されました。

安全祈願には、園田市長をはじめ地元選出の県議会議員や市議会議員、地元関係者など約120人が出席し、工事の安全を祈願しました。

この工事は、市内9工区最後の発注。これですべての工事が着工されました。延長は2,986mで、平成31年の完成を予定しています。

九州新幹線西九州ルート「新大村駅高架橋工事安全祈願」



1/31

大切な文化財を守るために

1 月26日の「文化財防火デー」に合わせ、黒丸踊法養堂で防火訓練を開催しました。

国の重要無形民俗文化財に指定された「大村の郡三踊」の一つである黒丸踊は、中国地方の浪人・法養が伝えたとき、黒丸公民館の隣に碑が建てられており、その偉業を祭っています。

この日は、保存会や地元消防団などが訓練に参加。法養堂から火災が発生したという想定で、団員らが放水や消火器を使って訓練し、防火への意識を高めました。

黒丸踊法養堂火災想定訓練



社会を明るくする運動
作文コンテスト
優秀賞



くほいつき 久保樹生さん
(西大村中3年)

「社会を明るくする運動」作文コンテストで、西大村中3年の久保樹生さんが、見事優秀賞に輝きました。久保さんの作文は、父への感謝の気持ちを綴ったもので、全国308,818点の応募の中からの入賞。この日、市役所で長崎保護観察所長から表彰を受けました。その作文をご紹介します。



1/18

温かいご飯

学級にいと、ふと聞こえてくる、「お母さんはうるさい。」「親が面倒くさい。」という言葉。聞く度に重たい気持ちになります。なぜなら僕は知っているからです。いつか後悔することを。僕は、かつては親に向かつて「うるさい。」と言っていました。

僕が小学校3年生のある日、家に帰ると母がいまいませんでした。僕が父に、「お母さんは。」と聞くと、父は「もうお母さんは家に戻らないんだ。ごめん。」と言いました。何が起ったかすぐには分からず、その場に立ちつくしたのを覚えています。

その次の日、家に帰って「ただいま。」と言っても、返事はありませんでした。僕はその時、母がいなくなつた事を痛感しました。特に悲しかったのは、朝ご飯も、昼ご飯も、夜ご飯も、温かいご飯ではなかったことです。パンや、買って来た弁当が続いたある日、我慢できなくなつて、「温かいご飯が食べたい。お母さん帰ってきよ。」と言ひ、寝るまで泣きました。

そして、後悔しました。宿題をしなさいと母に言われた時、僕が「うるさい。」と言わなかつたら、いつも僕のことを思ってくれた言葉に、「だまつてよ。」と言ひ返さなかつたら、温かいご飯が今も待つていたのかも知れない、何度か思いました。母の大切さ、ありがたさに気づいた時にはもう家になくなつた後でした。どうしようもありません。しかし、まだ両親がいる人は、僕の周りにたくさんいます。そんな人に言ひたいです。当たり前側にいてくれる人に、側にいてくれるうちに感謝することはとても大事だと。

今、日本だけでなく、世界の国でも

親を大切にしない子どもが増えてきているように思います。親にゲームを取り上げられた子どもが、親を殺害するという事件まで起きました。なぜ、自分のために働いて、ご飯も食べさせてくれる親を、自らの手で傷つけ、殺害までするのか、僕には理解できません。もう二度とこんな事件を起こさないために、僕ができることを考えてみました。まずは、日頃から感謝の気持ちを持たないようにはしません。僕が辛かった時、周りの人にたくさん助けってもらいました。祖母には、家事を手伝ってもらひ、伯母には忙しい父の代わりに世話をしてもらひ、これまでやってきました。助けてもらひ、これまでやってくれました。助けてもらひ、これまでやってくれました。助けてもらひ、これまでやってくれました。

次には、考えているのは、助け合いの輪を広げていくことです。助けてもらひた人には、必ず恩を返し、大変な思いをしている人には自分から声をかけることで、助け合いの輪を広げていこうと思ひます。これまでたくさんの人に助けられてきました。だから、これから苦しんでいる人がいたら、僕が励まして僕に励まされた人がまた別の人を励ます、そうやって苦しむ人がいない社会を作りたいと思ひています。

僕が番に恩返しをしたいのは父です。毎日生懸命仕事をして、僕が熱を出した時はききりて看病してくれました。中学生になつてからは弁当を作ってくれていました。そして家に帰ると温かいご飯を作ってくれる父に、生をかけて親孝行をしていきたいです。

温かいご飯が待つ家庭が多くなれば、悲しい事件も少なくなり、みんなが、周りに感謝して恩返しをしなから生きていけば、この世の中は明るく輝く、と僕は信じます。

明るく輝く、と僕は信じます。